

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	京都大学	整理番号	I01
プログラム名称	充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム		
プログラム責任者	岩井 一宏	プログラムコーディネーター	福山 秀直

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、支援期間前半においては、全ての面で取組が遅れが生じ、当初の計画を下回る取組が目立った。中間評価における指摘を受け入れて、後半になり立て直しに努力した結果、計画に掲げたプログラム・体制を、支援期間終了年度には概ね実現することができたが、支援期間前半の取組の遅れを取り戻すことはできなかった。平成 29 年度末時点で修了者が 1 名であり、数値の点では、計画とはほど遠い成果に終わった。また、この過程で、プログラム担当者の取組の遅れに対する、学長をはじめとする、全学的な管理運営機構の関与は積極的ではなく、博士課程教育リーディングプログラム自体が目指した、学長等のリーダーシップに基づく大学院教育改革というスローガンが十全に機能したかどうか大いに疑問が残る。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、計画にうたったインターンシップ、研究室ローテーション、学位授与の全学的な仕組みなどの教育システム等は、プログラム後半に至ってようやく形をなしたところであり、修了者のサンプルが少なく、現段階では肯定的評価が困難である。今後、大学独自の努力により、修了者が増加すること、また、本プログラム学生に対して、支援期間後半によりよく機能するようになった教育システム等が効果をもたらすことが期待される。

事業の定着・発展については、計画当初に掲げた専攻組織への発展は望めなかったものの、学内の他の博士課程教育リーディングプログラムとの合同による部局横断的な大学院教育プログラムを統括する学内横断組織の創設、医学研究科における固定的教育スタッフの確保等が図られている。これらの組織的サポートにより、支援期間終了後、これまでの努力が完全に雲散霧消することは避けられることが期待されるが、これらの取組が、京都大学全体の教育改革の取組とどのような関係にあるかは判然とせず、存続についての予算措置等についても、引き続き学長等のリーダーシップが絶対的に必要である。